

キャリア教養学科
複数の「新しい能力」への対応(2020年度版)

①キャリア教養学科

学修(習)成果	学士力(学士課程答申)	社会人基礎力			全国大学実務教育協会 上級資格(秘書系)			キャリア教養学科 学修(習)成果	キャリア教養学科 卒業の認定に関する方針(2019.11.19)	常磐短期大学 卒業の認定に関する方針(2019.11.19)
分類	概要(構成要素): DPへ展開	前に踏み出す力	考え抜く力	チームで働く力	領域1 含む基礎的な実務・資格に必要能力を	領域2 総合的な実務・資格に必要能力を	領域3 力の発揮・課題解決	1 「DP/CP見直し」検討 A 短大全体に位置づける内容。 B 短大全体及び学科に共通内容。 C 学科のみに位置づける内容。 D 整理統合または削除可能な内容。 E その他(CPとの整合など) ※①～⑩は、原資料の配列順。	学修成果	(主文) キャリア教養学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した上で、次の知識や資質能力を身につけた学生に「短期大学士(キャリア教養学)」の学位を授与します。
知識・理解	特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。 (1) 多文化・異文化に関する知識の理解 (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解				1-1.実務理解 1-2.基本能力活用 1-3.実務・学修に取組む力	2-1.知識 2-2.スキル 2-3.実務実践力	3-1.総合的課題発見・解決力 3-2.実践活動の学びの継続力	①現代社会を主体的に生きる知恵としての教養を身につける。 ②人間・社会・芸術・自然を多面的に把握するための基礎知識を身につける。	知識・技能	自己を成長させながら社会に貢献できる「教養ある職業人」として自立するための、幅広い知識と基礎的な専門職業能力(実務能力)を身につけている。
汎用的能力	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1) コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 (2) 数量的スキル 自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。 (3) 情報リテラシー 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 (4) 論理的思考力 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。 (5) 問題解決力 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。	動きかけ力	発信力 柔軟性		1-1.実務理解 1-2.基本能力活用	2-1.知識 2-2.スキル 2-3.実務実践力	3-1.総合的課題発見・解決力 3-2.実践活動の学びの継続力	⑥日本語/英語を適切に使って自分の考えを表現できる。 ⑦諸事象をシンボル化してとらえ、その関係性を分析・理解できる。 ⑧ICTを活用して問題解決に必要な情報を適切に収集できる。 ⑨知識・情報を論理的に整理統合し、その知を体系化して理解できる。 ⑩問題点(課題)を正しく理解し、その解決のためのプロセスを抽出できる。	コミュニケーションスキル・情報リテラシー	グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、社会人として必要な情報能力と異文化理解力を身につけるとともに、適切な自己表現ができる。
態度・志向性	(1) 自己管理能力 自らを律して行動できる。 (2) チームワーク、リーダーシップ 他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。 (3) 倫理観 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。 (4) 市民としての社会的責任 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。 (5) 生涯学習力 卒業後も自律・自立して学習できる。	主体性 実行力	計画力	3.1.主体的な行動力	1-1.実務理解 1-2.基本能力活用	2-1.知識 2-2.スキル 2-3.実務実践力	3-1.総合的課題発見・解決力 3-2.実践活動の学びの継続力	⑧主体的に生きる意味を認識し、その自己実現に向かって行動する。 (2) チームワーク、リーダーシップ (4) 市民としての社会的責任 ⑨社会を構成する一員であることを自覚し、他者との積極的な協働により行動する。 ⑩自己の良心と社会規範にしたがって誠実に行動する。 ※再掲 (2) チームワーク、リーダーシップ (4) 市民としての社会的責任 ⑨社会を構成する一員であることを自覚し、他者との積極的な協働により行動する。	社会的・協調性	教養とキャリアにかかわる学びを通じ、自立した社会人になるための実践力と創造性を有している。
思考力と創造性	獲得した知識等を活用し、新たな課題に適用し課題を解決する能力	主体性 実行力	課題発見力 計画力 創造力		1-1.実務理解 1-2.基本能力活用 1-3.実務・学修に取組む力	2-1.知識 2-2.スキル 2-3.実務実践力	3-1.総合的課題発見・解決力 3-2.実践活動の学びの継続力	⑪社会的に与えられた場所で生起する諸課題を正しく理解し、獲得した知識を活かして適切に解決できる。	【高大接続改革】社会で自立して活動していくために必要な「学力の3要素」 ①知識・技能の習得 ②知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 ③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度	

社会人基礎力の分類は、①②による。
①<表3-2「基礎的・汎用的能力」とこれまでに提唱されてきた関連する諸能力との関係について(試案)>『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター、平成23年3月)
②『社会人基礎力 育成の手引き -日本の将来を託す若者を育てるために 教育の実践現場から』(経済産業省 制作・調査 河合塾)63頁(表「社会人基礎力」と「学士力(例)」の関係)

幼児教育保育学科
複数の「新しい能力」への対応(2020年度版)

国立教育政策研究所『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』H14.11
幼稚園教諭モデルカリキュラム
「保育所保育指針」

② 幼児教育保育学科

学修(習)成果	学士力(学士課程答申)	社会人基礎力			OECD KEY COMPETENCIES			職業的(進路)発達(キャリア発達)にかかわる諸能力			これからの時代の幼稚園教諭に求められる資質能力			保育所職員に求められる専門性				
		前に踏み出す力	考え抜く力	チームで働く力	活用する能力	多様な集団における人間関係形成能力	自律的に行動する能力	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力	力	力	力	力	力	力	
分類	概要(構成要素): DPへ展開																	
知識・理解	特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。																	
	(1) 多文化・異文化に関する知識の理解																	
汎用的能力	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能																	
	(1) コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	動きかけ力		発信力 傾聴力 柔軟性														
	(2) 数量的スキル 自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。																	
	(3) 情報リテラシー 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。																	
	(4) 論理的思考力 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。			課題発見力 計画力 創造力														
態度・志向性	(1) 自己管理能力 自らを律して行動できる。	主体性 実行力		計画力														
	(2) チームワーク、リーダーシップ 他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。	主体性 働きかけ力 実行力		計画力	発信力 傾聴力 柔軟性 情報活用能力 規律性 ストレスコントロール力													
	(3) 倫理観 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。				ストレスコントロール力													
	(4) 市民としての社会的責任 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。	主体性 実行力			情報活用能力 規律性 ストレスコントロール力													
	(5) 生涯学習力 卒業後も自律・自立して学習できる。	主体性 実行力		計画力														
力験総と合創的創造的学習考経	獲得した知識等を活用し、新たな課題に適用し課題を解決する能力	主体性 実行力		課題発見力 計画力 創造力														

幼児教育保育学科
卒業の認定に関する方針(2019.11.19)

常磐短期大学
卒業の認定に関する方針(2019.11.19)

主文	(主文) 幼児教育保育学科では、人間性豊かで倫理観を備え、多様な課題に対し主体的・自律的に取り組むことができる実践力のある保育者の養成を目指します。そのために、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき編成した教育課程を通し、所定の単位を修得することで、次の知識・技能や資質能力を身につけた学生に「短期大学士(幼児教育保育学)」の学位を授与します。
学修成果	
1 知識・技能	・幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。
カ2・コミュニケーション能力	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。
創力3 課題解決力	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向けて取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。
4 自律性・協働性	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。

主文	(主文) 本学の建学の精神および学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。
学修成果	
知識・技能	1. 共通の教養科目を含むキャリア教養学科と幼児教育保育学科、それぞれの授業科目からなる学修を通じて、卒業後も自らの資質を向上させながら、社会的及び職業的自立を図るための基礎的能力を身につけた学生。
汎用的能力	2. 質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生。 3. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際的感覚をそなえた学生。
態度・志向性	

【高大接続改革】社会で自立して活動していくために必要な「学力の3要素」
①知識・技能の習得
②知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

社会人基礎力の分類は、①②による。
①(表3-2「基礎的・汎用的能力」とこれまでに提唱されてきた関連する諸能力との関係について(試案))
②『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター、平成23年3月
③『社会人基礎力 育成の手引き -日本の将来を託す若者を育てるために- 教育の実践現場から』(経済産業省 制作・調査 河合塾)63頁(表「社会人基礎力」と「学士力(例)」の関係)